

令和5年度第3回大府市認知症地域支援ネットワーク会議
兼 認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議録

- 日 時 令和6年2月15日(木) 午後1時30分から午後3時まで
- 場 所 全員協議会室
- 出席者 竹中徳哉、高見雅代、新美恵介、芳賀鉄男、川瀬正枝、齊藤千晶、中隆之、渡辺健司、久野泰弘、服部啓子、尾之内直美、横山眞弓、大野正浩、石崎裕史(中山知乃代理)
(敬称略)
- 欠席者 武田章敬、森下明雄、松山靖(敬称略)
- 事務局 猪飼、小島、佐野、高橋、舩川、山本、杉浦、東村、久保田、藤崎
- 次第
- 1 あいさつ
 - 2 議題
 - (1) 令和5年度・令和6年度大府市認知症施策について
 - (2) 大府もの忘れ検診(認知症診断助成制度)について
 - 3 認知症初期集中支援チーム検討委員会
 - ・大府市認知症初期集中支援チーム報告書
 - 4 その他
 - ・第2期大府市認知症施策推進計画について
 - ・大府市認知症地域支援ネットワーク会議委員の任期について
 - ・次回開催について

	内 容 (発言要旨)
1 あいさつ	中会長よりあいさつをいただく。
2 議題	事務局より資料に沿って説明。 (1) 令和5年度・令和6年度大府市認知症施策について (高齢障がい支援課) ・認知症サポーターフォローアップ講座、大府もの忘れ検診、認知症介護家族交流会の開催等 ・成年後見制度利用促進事業 (健康増進課) ・健康長寿塾、プラチナ長寿健診
委 員	各委員より意見等 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険について、支払った事例はどの程度あるのか現状を教えて欲しい。 ・認知症家族交流会について、開催日を土日等にするという考えも良いが、一つ課題として思っていることは、ケアマネや包括支援センターから紹介されて来られる方が少ない。交流会があると伝えるだけでは、ご家族がそこに出ていこうと

委 員	員	<p>するには力が要するため、ケアマネ、包括の方と一緒に家族支援について一緒に勉強会をしたりして顔の見える関係づくりをしながら、情報交換をお互いできるようにサポートできるようにしていけないか。</p>
事 務 局	局	<p>・今年度ではないが、過去に1件支払いの実績がある。</p> <p>・ケアマネの方々が集まる会議や、包括の研修会等をご自身でしているところもあるため、そういったところにお招きをさせていただいて、お顔つなぎをさせていただく取組を市としてもできたらと思う。</p>
委 員	員	<p>専門職の皆さんは家族支援ではなく、ご本人支援が中心でお仕事をされてきていると思うので、ピア活動がどんな様子かをあまりご存知ではないという点も影響しているのかと思われる。</p>
中 会 長	長	<p>健康長寿塾の認知症予防強化コースを受けられた方の中でハイリスクの方が多かったと伺ったが、入り数の方々へのその先の対応はどうしているのか。</p>
事 務 局	局	<p>認知機能を測定する測定を参加者の方に行い、MC Iの方、認知症の疑いのある方を抽出できるようなものになっている。測定を行った約半分ぐらいの方がMC Iの疑いというような結果が出てきていたが、今回初めての健診だったため、参加者の方も少し戸惑いながら行っていたというところもあった。対象者には、個別で面接を行い、まず生活の状況を聞き取りをし、気になる方については医療機関の受診などを、お勧めをしている。</p>
中 事 務 局	長	<p>この医療機関は基本的には地域のかかりつけ医になるのか。</p>
中 会 長	長	<p>基本的にはかかりつけの先生にご相談をいただくように進めている。</p>
事 務 局	局	<p>かかりつけ医で診られない方は紹介状等で、国立長寿へ受診に行くという流れになるのか。</p>
事 務 局	局	<p>市から直接長寿で受診するようにお勧めをしているわけではないが、かかりつけの先生のほうでご相談頂いて、心配な方であればご紹介していただくことがあるかと思うが、現在の生活状況をお伺いすると、そこまですごく困っているということとは少ないので、それで受診したというお話は今のところは聞いていない。</p>
委 員	員	<p>認知症基本法も施行され、今後より一層地域共生社会が求められる中で、大府市の施策の中でご本人やご家族の声をどう生かしていくかという視点がより求められると思われる。様々な施策に対して、ご本人やご家族の声をどう反映していくのかがなかなか見えてこない。本人ミーティングの機会や、認知症カフェの場など、ご本人さんたちがご家族と集まる場がたくさんあると思うので、その場の在り方や活用の仕方を今後ご検討いただけたらと思う。</p>
事 務 局	局	<p>現在、市役所全体がチームオレンジ化するということを目指しており、先日市役所の全ての課に参加をしてもらい研修を行った。認知症に対しての理解をすることや、ご本人やご家族の意見を反映すること及び本人が社会参加をする機会を作ることに、市役所が率先して行っていけるようなことを市役所全体に話を</p>

事務局	している。その中で市役所の職員もそういった話をしたときに、自分の課だったらどんなことが協力できるかなどということについてグループワークを行った。来年度以降、様々な部署から、本人参加や、本人の声を反映させる方法の意見等を頂くという形で動き始めているところ。また、この会議でもその成果がどういった形になるかということ、随時報告させていただけたらと思う。
中会長	そういった集めた声を紹介していただき、それを委員の中でディスカッション等しながら施策に反映できればと思う。
事務局	今回本人ミーティングだけの開催となっているが、視点を変えて何か場を作るといふことも、今の内容からいくと必要なかと思ったので、検討いただきたい。検討させていただく。
(2) 大府もの忘れ検診（認知症診断助成制度）についてについて 事務局より資料に沿って説明	
委員	一次検査は地域の医療機関に限るといふことか。
事務局	そのように考えている。
委員	例えば、一次検査を長寿医療研究センターで行った場合は、助成の対象外となるのか。
事務局	対象外となる予定。一次検査、二次検査いずれも実施していただく医療機関を登録制にしようと考えている。今のところは、長寿医療研究センターは、一次の登録はいただかずに、二次の検査機関としての登録をいただくことで考えている。
委員	一次検査の認知機能検査はHDS-RとDASCとされているが、他の検査を用いた場合は対象外となるのか。
事務局	他の検査を用いた場合には対象外と考えている。
委員	二次検査では認知症の鑑別診断でMRI、CTとなっているがそれ以外は対象外となるのか。
事務局	二次検査においては、患者の方の症状によってさまざまな検査の方法があると思われるため、保険診療分に関しては全額市で助成することを考えている。
委員	助成制度の今後のスケジュールのところ、協力医療機関の募集をされるということになっているが、どれぐらいの数が応募していただけるのか。その結果によって検査の申し込みが殺到した場合に、検査を行うまでに時間がかかってしまうということが懸念されるが、何曜日の日なら専門の診療を受けてもらえる等の設定は行うのか。
事務局	今後調整をさせていただくが、一次検査の期間についてはなるべく多くの市内の医療機関の方に登録をしていただきたいと思いますと考えている。既に一次検査費の助成制度を実施している名古屋市の事例を見ると、一次検査はそこそこ受診があるが、そこから二次検査を受診される方が非常に少ないということで、今年度の途中から二次検査についても助成対象としている。大府市ではなるべく多く二次検査も受診していただきたいので、二次検査も助成対象として制度を開始していく予定。

事務局	また、特に二次検査の方が予約を取りづらい状況が発生するであろうかと思うので、長寿医療研究センターとはその状況をみてご相談をさせていただきたいと調整を行っているところ。
委員事務局	認知症であると診断された方の後のサポートはどんな流れになるのか。 二次検査は償還払いということで、市役所の窓口に来ていただいて、助成の申請をするという形をとりますので、そこで市の施策等のご紹介や、ご相談をさせていただいて、その後のご本人さんとご家族の支援につなげていくことを考えている。
中事会長事務局	取り組んでいる施策につなげていくということか。 そのとおり。例えば、認知症高齢者等個人賠償責任保険登録者数も、かなり少ないということもあり、大府市は様々な認知症の施策を行っているが、それがなかなか知られていない、市民の方にまだまだ浸透していないと思っている。ご家族等に認知症の方がいらっしゃらないとなかなか関心が出ないとは思うので、なるべくそういう関心を広げていきたいと思っている。
中事会長	今回フロー図を作ってください流れは分かったが、ここから先にどういうところにつながっていくのかが、委員のメンバーの皆さんと共有できると、次へのつながりや広がりをもっとお話しができると思われる。行政の方で、つながり等が見えるようにしていただくようお願いする。
3 認知症初期集中支援チーム検討委員会	事務局から資料に沿って説明（大府市高齢者相談支援センター） 令和5年度 大府市認知症初期集中支援チーム報告書 チーム員、活動・役割、検討件数の推移、終結時の状況、支援の状況、活動実績まとめ及び今後の取組について説明。
竹中副会長 (初期集中支援事業 サポート医)	報告にもあったが、認知症は家族でも分からない、家族しか分からないということがある。私が担当している患者様でも、医師の前では普段通りの感じにしているように見えるが、家族からすれば随分認知機能の低下が見受けられるというケースがあった。ただ、ご本人は高齢の方が非常に多く、私は大丈夫だとおっしゃる方が多い。あるケースでは、初期集中支援チームから事前に医師に連絡をし、家族だけの面談をして、一芝居打って支援等につなげていったこともある。チーム員は訪問等の業務もあるのでご苦労かと思うが、少しずつ掘り起しができれば良いと思う。また、今年度から会議資料に取り入れている見える化シートは非常に分かりやすいので、作成は大変かもしれないが、短時間の会議で多くのケースを話し合うことは難しいので、継続して活用をして欲しい。
委員	つなげる先として、県のコールセンターがある。具体的な細かい介護の仕方であったり、ただ話を聞いて欲しいという方もいるので、聞いてもらうだけでも随分気持ち楽になられたりもするので、コールセンターや交流の場とかも是非ご紹介していただきたい。
中事会長	全体を通して、意見等はないか。

中 委	会 員	長 員	<p>認知症カフェについては、現在の状況はいかがか。また、要望や市に向けての発信等はあるか。</p> <p>カフェに来てくれる方々が固定化している。重篤になられて来られなくなった方もいる。スタッフの中にも認知機能の低下が感じられる方も出てきており苦慮している。本人は認知症とは認めないし、まだ自分はされる側じゃなくする側でいたいということで、カフェの真髓には沿っているが、その辺りの兼ね合いで少し頭を悩ませているところ。それでも最後までうちに来てくれるといいかと思っ て、最後は笑って帰って欲しいという根本の目的は変わっていないので、内容をもっと変えていけたらいいと思っている。</p>
中 委	会 員	長 員	<p>認知症カフェ全体（9か所）としてはどんな状況なのか。</p> <p>コロナの影響がまだ尾を引いている。個人でやっている小さなところは良いが、施設や病院等でおこなっているところはまだ縮小傾向にある。研修大府センターのように通常通り開催しているところもあり、両極端に分かれているかもしれない。まだ食べ物を出すなど、本格的にカフェとしての開催はできていない。</p>
中 委	会 員	長 員	<p>世の中は戻ってきているが、高齢者のところに関しては、戻り切らない部分がある。</p>
委 事 務	局	員	<p>やはり少し怖いところがある。うちのカフェでクラスターが発生したらどうしようと思う気持ちがある。過敏になっているところはある。</p>
委 事 務	局	員	<p>認知症カフェについて、本当に大きな流れとしては、コロナで一旦皆さん活動ができなくなったところから、回復している事業所、カフェが多いかと思っている。その一方コロナをきっかけに活動が縮小若しくは中止になってしま い、カフェの数を数字だけで見ると微増にはなっているが、一つはもう完全にやめるとい うことでお話を頂いたカフェもある。ただその中でも新たに市内でカフェができてきているところもある ので、内容については、やはり飲食等は控えているところもあろうかと思うが、全体の流れとしては そういった形になっている。</p>
委 事 務	局	員	<p>災害や感染症の対応については、認知症施策の中に入っていないが、認知症の方やご家族への対応についてはどうなっているか。</p>
委 事 務	局	員	<p>災害時の認知症の方の対応については、災害弱者の方に該当するので当然避難行動をどうして いくのか、その登録から行っている。それが避難所での対応や、認知症の方だけではなく障害者の方の 対応も含めて、事業施策を進めているところ。ただ認知症の方が全く不安なく避難所に行けるかとい うと、到底そういう状況ではないとは思っているので、今の奥能登の状況を踏まえて、大府市の災害 対策についても生かしていきたいと思う。</p>
委	員	員	<p>入院を必要とする高齢者の患者様で初めて、専門医療につながるような患者もおみえになる。先日も高齢の父と働いていない息子が2人暮らしで、訪問看護が入</p>

委員	<p>ってはいたようだが、認知症の診断というところまでは専門医療につながってなかったケースで、たまたま訪問看護師の前で息子が父を引きずり回しているところが発見されて初めて、虐待措置がとられて専門医療につながったケースがある。数年にわたってそういった行動もあったということで、なかなか発見されづらいケースだったのかなと思う。初期中の中に、相談件数が把握ルートとして家族から10件となっているが、恐らくこれはご家族が、高齢者相談支援センターに相談に行ったのかと思われるが、医療に相談に行くご家族と初期中に相談に行かれる家族の違いがあったりするのかな。</p>
事務局	<p>初期中の場合は、ご家族で医療に連れていけないという場合が多い。しかし、医療としてはご本人の同意がないと受診ができないので、ご家族やご本人と関係性を築いてから受診につなげるというやり方を行っている。</p>
委員	<p>病院にも本人を連れてこられないというケースの相談があり、病院としては病院が行くわけにはいかないの、何とか連れてきてもらうようお願いをしているが、ご家族は頑張って連れてこようとしてご本人に嘘をついて、買物に行くよとか、ご飯食へに行くよと言って連れてくるケースもある。そうすると今度は医療としての信頼関係がすごく結びづらい現状もあるので、何とかそういったところで、この受診動向とかのサポートとかができるといいなと思っている。また何かご検討頂ければなと思う。</p>
中会長	<p>災害の話も出ているが、一般的などころから見て認知症の方と避難所で一緒に過ごすという状況を考えたときに何かご意見はあるか。</p>
委員	<p>多くの場合は、外見で認知症の方とそうでない方の区別は一般にはつかないと思うし、特に避難助等で初対面の方と数日ないし数週間を、生活を共にするというの中では、やはり戸惑うことも相当多いのではないかと想像ができる。周りにそういう対象の方がいれば、理解もできるのかもしれないが、そういった方がいないと、どのように避難所で、できる限り無理ないところで生活していくかということ、何かしら指針のような専門的な知見から、こうしましょうというようなものがあると良い。そのとおりに必ずいくとは思わないが、避難所に避難されてきた方の、こうすればいいんだなというような、マニュアルのようなものがあると助かるのではないかなと思う。</p>
中会長	<p>今回だと、1か月たってやっと徐々に要介護者が色々なところに搬送されて、避難所がちょっと落ちついてきている状況と聞いている。2、3日なら我慢できるかもしれないが、これが1週間、10日、2週間と続いてくると、やはり一般の方からすると、耐えられないのかもしれない。どれぐらいの対応ができるのかも考える必要があると思う。</p>
委員	<p>こちらができることは恐らく何も無いが、逆に認知症の方を介護されているご家族が余計にこんな状況で更に気を使わなければいけないという事態は行政として恐らく望むところではないと思うので、具体的にどうすればいいなんてことは、まだ思い浮かばないが、何かしらのケア等があるとご家族の方も少しは気が</p>

委	員	<p>楽になるのではないかなと思う。</p> <p>福祉避難所というものがあるので、それをもっとアピールして、大府市のこれからのことを考えるのであれば、その福祉避難所をもっと細分化するとか、そういうものをつくっていけば、利用者側ももっと楽になるし、まず家族の負担を取ってあげないと、当事者の方へのケアはできないので、その辺りをしっかり行政にお願いして、様々なことに対応できる福祉避難所ということを考えていただけるとありがたい。</p>
中 委	会 長 員	<p>グループホームではどうか。</p> <p>1月1日に地震のニュースを見て、利用者は不安になっていた部分があった。また、法人本体のところは地域の避難所と指定されており、地域の方とかと交流を深めて、春まつり、秋まつりの時に、何かあったときは避難場というような形になるということを周知する形で進めてはいる。子ども達も参加しているときにも、何かあったときはここに避難だよという話をしていたと聞いているので、そういうところから少しずつ始めている。</p>
委	員	<p>私共も福祉避難所の指定を特養で受けているが、地域の方がたくさん来られても、職員がどれだけ対応できるかというところがある。その部分が少し難しいというところと、食糧もどうするのかという話になってくるため、そのところをどうやっていうところが課題。今回石川県の方で災害を受けた特養もあり、特養の被災された方をお受けできますかという話があり、私共としては受け入れるようにしようということで話をしたが、今のところこちらに来ている方はいらっしゃらない。そういった形で災害があったときに、当方としても、福祉避難所として出してはいるが、受け入れられるだろうかというところと、どうやってやろうかと考えている。福祉避難所の立ち上がりをどう立ち上げるのか。場所に関しても、認知症の方がいると、よく新聞でも出ているが、お部屋を用意の方がいいということがあると思うが、お部屋がどれだけ用意できるかというところもあるので、そういったところもやはり考えていかなければならないというところが課題になっている。そこで、私共もBCPを作らなくてはいけないため、作ってはいるが、全てを網羅するかというとなかなか難しい。今そこが課題かと思っている。</p>
中	会 長	<p>食糧と場所の問題は、私も施設を運営する中で問題だと思っている。石川県でも100床のところに入ってこられた方が50人ほどおられ、もう食糧がないという話で、出ていってくださいというようなこともあったと聞いている。</p>
委	員	<p>大府市の認知症患者の総数が3,000人程度は、潜在的な方も含めているということだが、その割にはおおぶ・あったか見守りネットワークの登録者数が100名程度、見守り検索支援サービスの利用者が2人、個人損害賠償保険制度への加入者が、これも93人となっている。これは、認知症の重症者の方が93人、100人前後なのか。あるいはその遠慮があるのか。あるいは、周知不足なのか。それは行</p>

委	員	<p>政側の話であり、周知不足もあると思われる。このテーマとは違いますけれども、大府市で自転車のヘルメットにしても、泥棒対策、防犯対策にしても市長がよくおっしゃっているが、市の補助金制度、認知症に関するいろんな補助制度あるが、やっぱり少し周知が、完全とは言えないかと思う。私共も自治区の関係で様々な回覧物が入ってくる。やはり、先ほどのほかの補助制度に関しては、2度か3度、入っている。そうするとこういうものも、特にこの損害賠償保険とか、何かあったときに、個人が非常に大きな損害を負うことになる。そういう点では、認知症という診断を受けている方は、保険料は無料なので、せつかくある制度がまだ活用されてないのは周知不足と考えられる。啓発なども必要であると、1年間のデータを見て感じる。この先1年間の計画の中には、何十名か増やす計画が入っているが、これはあくまでも、行政が考えた計画であるので、ぜひもっと利用率が上がるように取り組んで欲しい。認知症の方がいらっしゃる家庭の人があまりまだ考えてないか気付いていないか。そういうのは市としてどういう見解なのか。</p>	
事	務	局	<p>ご指摘頂いたことについては私共もよく悩んでいるところではある。3,000人程推計の方がいて登録者が100人しかいない。委員がおっしゃったように、一人歩きをするレベルの人が少ないのかもしれないというご指摘もある。私もそれは一つ要因があると思っており、認知症の方でもひとり歩きをする人が、体は元気だけど、判断能力が落ちてしまっている方、逆に言うと、判断能力が落ちてしまっているし、身体能力も落ちていてひとり歩きできないという方も中にはみえると思われる。また施設等に入っていて、既に一人歩きをする心配はないという方もみえると思う。そのような方々を含めて全部で3,000人という推計なので、そのレベルに対して、事前登録をしてもらうのに適している方がどれだけいて100人なのかは、私も正直分からないところがある。周知不足ではないか、または遠慮して登録をしていないのではないかというご指摘もあったかと思うが、まさにその通りだと思う。来年度始まる、診断の助成制度もそうだが、認知症に関して新しい施策を打つ度に、一生懸命、周知をするように努めている。また来年度に関しては啓発事業を9月21日が認知症の日になっており、基本法の中でも、その日に啓発活動するということが、自治体の努力義務になっている。もともとそういうことをやっていたが、より力を入れてやっていこうとも思っている。また、遠慮するとか、認知症について偏見があって隠してしまうという方もみえると思うが、そういうことのない共生社会をぜひ作っていきたいと思っているので、いろいろな機会を通して周知し、遠慮もないようにし、偏見を取り除くようにしたいと考えている。</p>
中	会	長	<p>今回新たに物忘れ健診の仕組み、取組のところもありながら、少し災害のところにも皆様のご意見を頂いたりしましたが、次回はもう少し全体像も見える中で皆さんからまたご意見が出せるような形を整えながら進めていければと思うので、またよろしく願います。</p>

4 その他	事務局から説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期大府市認知症施策推進計画について ・ 大府市認知症地域支援ネットワーク会議委員の任期について ・ 次回開催について (事務局に進行を戻す)
事務局	本日いただいた意見を参考にして、認知症になっても安心してらせるまちづくりを進めていく。今後ともご協力をお願いします。